

加子母の地域コミュニティ誌
2025年5月発行 vol.0

.....

どすい 6 月刊



【特集】 明治座クラシックコンサートの背景
【特集2】 里山での生き方 渋谷寿一先生講演会

「自分にしかできないものを探したい」

明治座クラシックコンサート背景 秦雅文

四月十二日、十三日。今年で第二十五回を迎える田中千香士音楽祭
明治座クラシックコンサートが行われました。
毎年素晴らしい演奏を聴くことと共に芸術家・秦雅文さんの手掛ける
背景を楽しみにしている方も多いのではないのでしょうか。

「村の人たちと一緒に作ろう」という気持ちで

元々、クラシックコンサートは僕が来た年の秋に始まったんだ。当時の役場職員だった内木哲朗さんに、明治座でコンサートをするために背景を作れないかと相談を受けた。当時の明治座だと、後ろに大黒（黒い幕）か松羽目くらいで、勿論コンサート会場にあるような反響板のようなものはなかった。二、三日後にはコンサートが行われるという状況だったから「今から!?」と動揺しつつも、懸命に考えた結果。その年の夏に、木匠塾が作った巨大なウッドデッキで東京から来た舞踏家が躍るイベントで描いた作品なら使えるんじゃないかと思いついた。それが始まりで次の年からも背景を作ることになったんだ。

大きな白布を用意してもらって「みんなで作ろう。」とワークショップを開いたこともあった。加子母の人や子供たちといろんな色の絵具をつけて、それを背景にしたり、公民館講座でやっていた水墨画教室の人たちと、北京駅伝の時に買ってきた巨大な筆を使って抽象的な線を描いてみたりしたこともあった。

子供たちと一緒に描いたパネルはお気に入りだ。唯一コンサートで二回登場しているという気持ちで作っていたね

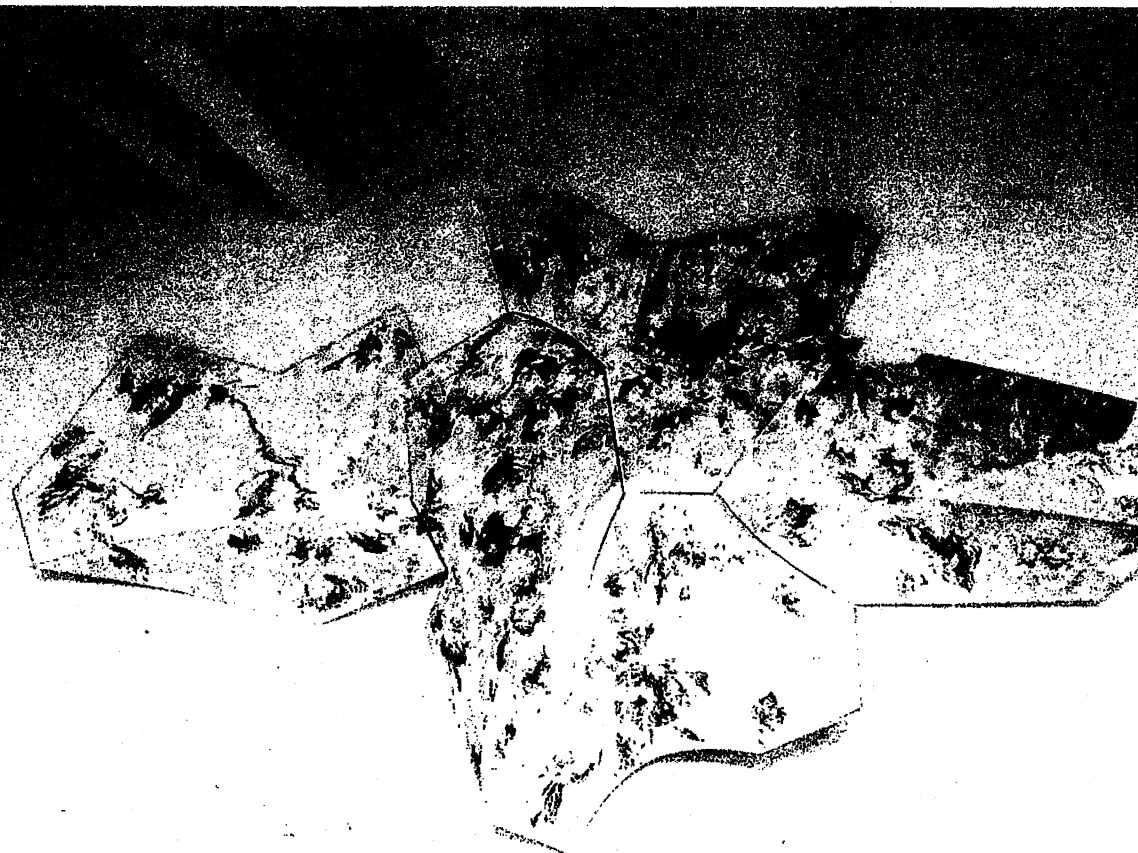
「もっと自分らしいものを」

それから何年が続いていくうちに、だんだんとモチベーションが続かなくなってきた。合併後くらいに、田中千香士先生の体調が思わしくないという話を聞いて、かしも通信でインタビュースることになった。それまで千香士先生と自分は交流といった交流がなかったもので、思い切って

「この背景は演奏の邪魔ではないですか？」と聞いてみた。千香士先生は

「そんなことは全く関係ない。音楽というものはもつと真剣なものだから、何をやってくてもいい。」

そう言ってくれた。そこでお墨付きをもらったことがきっかけになって、今までは村のイベントとして取り組んできたけど「今度はもっと自分らしいものを作ろう」と考えるようになったんだ。





「自分の作品で勝負したい」 と思うように

けれど自分の作品にしようと思うとあの空間は大きすぎる。

コンセプトチャールにしようとか加子母の色を抜き出して正方形のパネルを並べるといったものも作ったりしたけれど、あれは大変すぎたうえに、自分にとってはあまりしっくりこなかった。

そのうちに予算がだんだん少なくなってきた。予算内で大きな空間を埋める方法を考え、テープを使つての線画を思いついた。それは何年か続いたね。毎年、何か月も前からパソコンで構成を考えて、明治座で真夜中までかかって作った。照明を担当していた三浦正樹と一緒に夜中に作っていると、誰もいないはずの場所から物音がしたりして二人で顔を見合わせたり(笑)

毎年テープを色々と変えたりして、いろいろな試行錯誤をしたけれど、段々とフラストレーションが溜まってきた。

「しっくりこない。自分の作品にならない。」そう思っていた。

その頃、白井圭さんたちと打ち合わせなどをするようになっていたんだけど、隣にいるうちに彼の音楽に対する熱量、真剣さがひしひしと伝わってきて、僕も次第に「絶対に自分の作品で勝負したい。」と思うようになってきた。せっかくこの人たちと関わってきているのに、自分も真剣な作品で関わらないと勿体ない。そうして「やっぱり(背景は)テープじゃない。」と考えるようになった。俺も自分にしかできないものを探したい。自分の作品を出そう、と。

「負けちゃいけない」

しばらく止めていた個展を再開するために、大きい作品を作ることにした。

明治座のことを考えるうちに松羽目をイメージした作品にしようと思った。松羽目というのは、客席側に影向の松(神性を持った松)があるものと仮定して、背後の鏡板にその松が映っているという設定になっている。僕の作品は、立体があつて、立体の写し取った影みたいなものが後ろにあるという対比の作品というもので、それと影向の松は非常に相性の良いものだ。いろいろなイメージを出してパソコンでパターンを組むんだけど、組み合わせは無制限になる。東京の個展会場から明治座まで自分の車で運べるように、作品を五つに分解して、組み合わせられるようにして作った。

作品を作る時もクラシック(その年の演奏曲)や白井さんのCDを聞きながら作業するんだ。やっていると、気分が高揚して「負けちゃいけない」と闘志が湧いてくる。白井さんはすごいよ、あんなにアツい人は他にいないと思う。加子母に来て演奏してくれる人たちは、普段楽団でやっているときには出来ない自分の音楽を追求するために来ているんだ。だからこそ、朝から夜中まで限界を超えて、鬼気迫るほどのリハを横で見るのが俺はすごく好き。この熱量に負けられないものを作りたいと思うんだ。

「明治座があればこそその出会い、繋がりができることは面白いね。こうした出会いを大切に、これからも繋げていきたいと思うよ。」と秦雅文さん。自分を追求しようとして試行錯誤を重ねる姿が印象的でした(文責 今井)

秦雅文

兵庫県出身。
加子母在住のグラフィックデザイナー・アーティスト。
広報誌「かしも通信」編集長
明治座クラシックコンサート実行委員会会長
加子母歌舞伎保存会役者部会長
最近はポッドキャスト“ji-kabuki A Timeless Journey”を配信中
地歌舞伎のある豊かなくらしを発信しています。
ぜひ聞いてみてください！



月刊どさない③



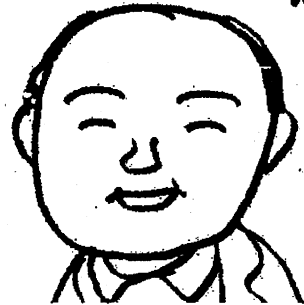
ポッドキャスト・・・インターネット上で音声や動画の番組を配信するサービスのこと。

松羽目・・・歌舞伎の舞台で使われる、大きな老松が描いてある幕。能舞台では鏡板という。

里山は「何もない」ではなく、すべてが「ある」

渋沢寿一先生が明治座で講演

渋沢寿一先生



渋沢寿一（似顔絵イラスト 本間希代子）

1952年生まれ。農学博士。1980年、「JICA 専門家としてパラグアイ国立農業試験場に赴任。

2022年からは「聞き書き甲子園」を主催。各地の「なりわい塾」実行委員長を務め、過疎地に定住する若者の育成を進めながら、多摩社会の実現を目指す。

1998年より「里山資本主義」の推進に努める。

4月26日、かしも明治座で渋沢寿一先生が講演しました。講演は「労働生産性から資源生産性へ」をテーマに「かつてはどこにでもあった里山資源の循環」や「何百年、何千年と続いてきた暮らしの在り方」などを語っていただきました。

「渋沢」と聞くと少し前に大河ドラマにもなった一万円札の肖像「渋沢栄一」を思い浮かべる人も多いと思います。渋沢寿一先生は、渋沢栄一の曾孫にあたります。講演は、渋沢寿一先生の自己紹介から始まり、渋沢栄一先生の曾祖父である渋沢栄一の紹介へと続きました。

労働生産性から「資源生産性」へ
渋沢栄一という人は、明治維新後に数多くの企業の創業に携わり、武士や農民という階級の差をなくし、すべての人に富が行き渡る社会を実現しようと考えた人です。時代の流れと共に栄一の理想とした社会と現実がかけ離れたものになっていき、現代ではいかに早く、たくさん生産できるか、どれだけお金を稼げるかといった労働生産性を重視するようになっていきました。これは資源生産性です。限りある資源をどれだけ無駄なく、循環させて使えるかが力になります。

森の循環から学ぶ、里山の在り方
循環型社会のヒントとして、渋沢寿一先生は秋田県のある地区についてお話されました。天明や天保の飢饉の時に一人の餓死者も出なかったというその地区で、毎年一か所ずつ伐つて住民全員が一年分の燃料にするそうです。それを森の成長する速度に合わせることで、自然と共生する人たちがいるそうです。このように生活が循環していること、自然と共生することが出来ていきました。このように生活は、かつて日本どこでも見られた光景です。

暮らと仕事

同じ地区でのお話で、終戦後に村へ電気を引くために鎮守の森の樹齢三百年の木を伐つたときに村民同士でとても揉めまわった。なぜかというところ、その木は先祖様から何世代も先の子孫が困窮したときのために育ててきたもので、それを今伐るべきかで揉めていたのです。その話聞いていたのは、一人のお年寄りが「山の中で暮らすには、稼ごと仕事の両方できないと一人前じゃないんだよ。」と言いました。稼ごと仕事、自分や自分の家族を食わせるためのものは、仕事というものは、何世代も先のこと、考えて山の手の入りを、何たり、草刈りや、祭り、結い、お金の共同作業。つまり今の自分たちの生活にはない、これからの人たちのためにやることです。

愛のきつかけは「興味を持つこと」

人間の暮らしの中には、愛、芸術、祭りの、福祉など、お金には換算できないものがたくさんあります。現代社会は「無縁社会」といわれます。人と人の関係が疎遠になりつつあります。田舎の生活でよくいわれる「おしゃべり」は、温かさや表裏一体のものです。土地のことを聞かれたとき「なににもない」と答える方が多いのですが、「何を考えるの？」と答える方がいます。里山には全部があるのですから。

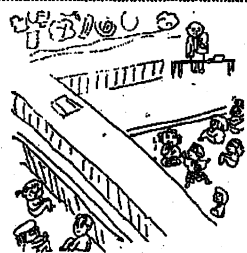
口から入る

最近では、将来の夢を聞くといくつの子がどんな職業に就きたいかといった答えが返ってきます。「何になりたいか」「(男)」「(女)」よりも「どう生きたいか」「(男)」「(女)」になりたいたいことを考えることが大切だと思います。働くだけではなく、どう生きていくかというものがこれからの時代には必要になってくるのです。

便利さの裏にある本能的な大切なものを、自然や地域の循環から見つめなおす機会となつた今回の講演。講演に参加した人たちは「とても面白かった。」

「個々に働くこととは別に、全員が協力して行う地域の祭りとかはやっぱり大切なんだな」と感じた。また、

「渋沢先生の言葉を聞いて、今後私たちがどのように「自分たちの暮らし」をつくっていくのか、一人ひとりが考えていくきっかけとなる講演でした。(文責 今井)



「加子母人」
加子母の話を聞き書きした本（かしも通信）
渋沢寿一先生が聞き書きの講師として携わっている

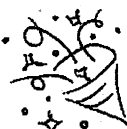
渋沢先生にインタビュー

「加子母に来たときの印象はどうでしたか？」

「加子母に初めて来たときは、加子母人で聞き書きをしていた本間希代子さんや田中浩子さんに招待してもらって来たのですが、着いた時間が夜あたりは真っ暗でした。唯一明かりの灯っていたのが明治座で、中では地歌舞伎の稽古をしていました。翌朝、外に出たときに「空が広いな。」と感じたのが印象的でした。今回久しぶりに訪れたのですが、やっぱり「空が広いな。」と思いましたね。」



加子母の地域コミュニティ誌「月刊どさない」がはじまります！



今月から、新たに加子母内の小さな話題をお届けするコミュニティ誌「月刊どさない」がはじまります。
メンバーは子育て世代を中心に加子母に関係する若者たち。取材も編集作業も、初めてのことでばかりで戸惑うこともあるかもしれませんが、加子母の楽しいことを発信していきたいという気持ちで頑張ります！
どうぞよろしくお願いします！

中津 政守 加子母の暮らしの手帳、どさないをよろしくおねがいします！
丹羽 淳一 小郷に住んです。『かしもっ子タイムズ』の連載頑張ります。
佐野 智哉 頑張ります！
日下部さくら 小和知出身です。イラストを担当します。発行が楽しみです！
中島 彩愛 表紙デザインとイラストを担当します。ときどきわくわく！

今井 あずさ 楽しく続けていきたいです。よろしくお願いします。
LargeM (PN) 加子母の良いところを伝えられるように頑張ります
原田 かなえ あるく・みる・きくを大切にします！

その他たくさんの方々に協力していただきながら、
発信していきます！

岐阜日日新聞で明治十九年十月十四日に、「東濃の村芝居と西濃の煙火（花火）」は、美濃の二大痼疾なり」と記事が載りました。そのくらい東濃は芝居が盛んだったんですね。そんな中で明治座が地域の熱意で建てられ百三十年経ちました。

今年のゴールデンウィークは、祭りの笛の音、子ども御輿の声があちこちで聴こえ、それにつられるように明治座にも沢山のお客様が来館されました。遠く福島県、関西、北陸からと合計230名ほどの来館者でした。

風薫る五月。
トラクターや草刈りの音が聴こえてきます。
新緑の季節明治座の窓からみえるみどりの風景も良いものです。ふらっとお立ち寄りください。

今月の明治座

昔の加子母へタイムスリップ……

なつかし～もんミツケ！



大杉地蔵尊の春祭り



昭和30年ごろの写真。

奥に見える旗と鐘撞堂の瓦屋根は今も変わっていませんね。歩いている人の服装を見ると、心なしかおしゃれをしている人が多いような気がします。

手前で手拭いを被った女性がのぞき込んでいる露店はなんと「金魚売り」です。

昔はこうして桶に入れて売っていたのですね。

制服姿の女の子が真剣なまなざしで金魚を眺めて、買おうかどうか悩んでいるのでしょうか。

現在の大杉地蔵尊春祭りでは、釈迦の生誕を祝う花祭り（灌仏会）も同時に開催されています。春祭りで見る白い象の像は釈迦のお母さんが、釈迦を身ごもる前に白い象の夢を見たということに由来しているそうです。



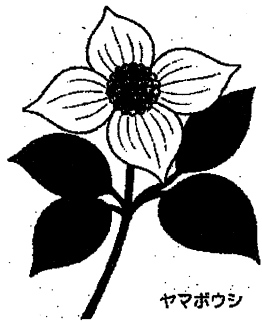
※表紙：容易に拾えない商標のこと。若者層に人気がある「どさない」特定の対象に非常に強い興味や関心があり集まっている。

明治座案内



今月のかしもっ子！

小・中学校 こども園のようす



ヤマボウシ

今月はお休みです！
来月からスタートするので楽しみに
していてね！



加子母の名所・旧跡をめぐる

ほっとさんぽ



大杉地藏尊から徒歩一分ほど。

昔むかし、この近くに住む女の人が捨てられていた赤ん坊を拾いました。乳の出ない女は、大杉地藏尊へお願いをすると、夢の中で「池の水を飲ませ大切に育てよ。」とお告げがありました。女が池の水を赤ん坊へ飲ませると不思議なことにすくすくと成長し、立派な若者に育ったという話があります。

「大昔には、この伝説を聞いてお乳の出ないお母さんが池の水を汲みに来たり、赤ん坊に飲ませたりしたそうやげな。」というのは曾祖母から聞いた話。

池の前にある説明の看板を読むと「加子母十景」の文字。

残りの九景が何か、気になるところですね。

十年ほど前は大きな木々に囲まれ鬱蒼としていましたが、大風や雷などもあり、池の周囲が整備されたので今は桜に囲まれすっきりと爽やかな池に。四季を通して様々な自然を楽しめます。晴れた日には御嶽方面の山々も見渡せるので暖かい日の散歩におすすめです。



乳児の池を散歩。晴れた日には山の緑が美しい。



近くを歩くと今でもそこかしこで見かける「加子母村」の文字。



加子母の疑問 「これってなに？」

Q「どさない」ってなんですか？
(20代 女性)

A 加子母の方言で「どうもない」「大丈夫だ」という意味です。「どさない」という方言は飛騨・東濃あたりで幅広く使われているので、ほかの地域でも同じように「どさない」を使うよ、というところが多々あります。「どさねえ」「どうさない」などアクセントは微妙に違うこともあるそうです。

子供たちと一緒に畑を楽しむ
簡単！自然に任せる泥団子農法

中津家では近年、春先になると泥団子を作るイベントを行っている。

そこに好きな植物の種を入れて畑に投げる、泥団子農法という農法で子供たちと土に触れ、簡単に野菜を育てる畑作りを楽しんでいるのだ。

やり方はまず、種を粘土、堆肥、肥料と混ぜて団子状にする。

きれいな泥団子にするために、中津家では政守さんが春先になると山に入り、良質な土を選んできてくれる。

泥団子を作る際に、植物の種をだいたい中心部になるように入れ、出来たら乾燥させる。団子が乾燥すれば鳥や虫から種を守ってくれる。いかにきれいな泥団子を作るかが大切だ。

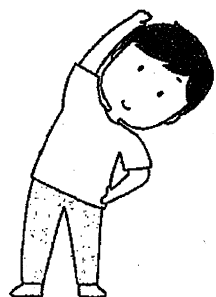
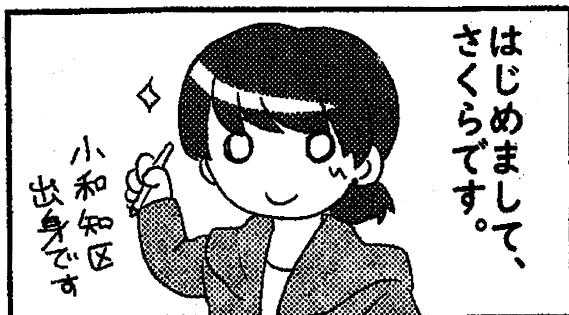
出来た泥団子は畑に向かって置く。後は放置しておけば種が自然環境を察して勝手に発芽する。水やりや手入れなどは不要で、種が発芽して育ったものを、子供たちと畑の中を探して収穫するのだ。どのくらい成功するか、何が出来るかは分からない。

けれども子供たちがどんな菜からどんな野菜が出来るのか、考えて自然と触れ合うことが出来る。宝探しのようになんて楽しい作業ができるのか、泥団子農法の醍醐味だ。

方言・加子母弁のお勉強

<http://www.tsystem.jp/kashimoben/>

0話『自己紹介』



Mana FIT. のマナ先生によるミニ運動アドバイス!

プチー

Mana FIT.

目標は1セット10回、1日3セット!



月刊どきない⑦

衣替えも終わり、そろそろ本格的な夏が近づいてきました!

本格的に畑仕事や、草取りなど体力を消耗する季節になりますね。急な運動や気温の変化で、体の不調や熱中症などになりやすい時期でもあります。体力づくりが必要な今の季節におすすめしたいのが身体全体を使える「スクワット」です。

- ①足を肩幅に広げて立ちます。
- ②両手が耳の横あたりに来るように腕を上げます。
- ③上から見たときに、膝がつま先のラインから出ないように注意しながら、ゆっくりと鼻から息を吸い込みながら、腰を落とします。
- ④ゆっくりと口から息を吐きながら、元の姿勢に戻ります。

スクワットは下半身のいちばん大きい筋肉を鍛えます!

足腰を鍛えるのはもちろん、代謝が上がりやすいので痩せやすい身体にしていけるためには欠かせないトレーニングです!

そして、立つ、座る、歩く。全ての動作にとっても大事な筋肉を動かせるトレーニングでもあります!

隙間時間に少しでも関節を動かして筋肉を使って、たくさん歩ける身体にしましょう!(mana)

*周囲に危険なものが無いかを確かめ、身体に無理のない範囲で進めてください。

かしもっ子
タイムズ

No17.狐に化かされた話

皆さんは狐に化かされた事はあるだろうか。私はある。正確に言えば、化かされそうになった話だ。

今から9年ほど前、子どもがようやく歩き始めた頃だ。コタツが出ていたので秋口だったと思う。夕方、テレビを見ていると裏庭の山手側で『ギャー!』と悲鳴のような音が聞こえた。頭に浮かんだイメージは、怪我をして泣いている子どもの様子だ。『いつの間に外に出てしまったのか!?』と急いで外を見に行こうと思ったその時、寝室から眠そうに出てくる子どもの姿を見つけた。冷静になって外に耳をすますと『ギャーン、ギャーン...』とさっきと違って聞こえる。どうやら狐の鳴き声のようだ。童話のようにコンコンとは鳴かないらしい。山の中などで子とはぐれてあの鳴き声を聞いていたら、きっと森深く入ってしまっただろうと思う。少し冷んやりした物を背に感じ、眠そうにしている子を抱えて火が入っていないこたつに潜り込んだ。

加子母の歴史と伝承にも狐にまつわる話は出てくる。しかし、近年では全国的にこういった話は減っているようだ。近代化と共に失われるこういった体験が妙に懐かしく感じる。



ひとなる食堂

vol.1 ズッキーニの浅漬け

Large M



ズッキーニ

和名は「つるなしかぼちゃ」ご存じの方も多いだろうが、キュウリのような見た目でも実はペポカボチャの仲間である。ほのかな甘みがあり、淡泊な味。

少し昔の話。私はイタリア料理のレストランでアルバイトをしていた。

そのとき、シェフからズッキーニについて教わり、実家の畑で育ててみたことがある。茎が太いので、晴れている日に収穫しないと病気になりやすいとか、受粉をするために二株以上植えるのいいとか、勉強しながら、自らの手で育ててみるのは面白かった。

料理をするときは淡泊な味わいを生かしてカレーに入れたりスープに入れたり、チーズをのせて焼いて食べるのもおいしい。大きくなりすぎたズッキーニは、サバの味噌煮と炒めたりもした。

一度だけ、びっくりするほど苦い料理になったことがある。後から調べてみたところ、受粉の時に失敗するとククルピタシンというものを含んだ苦みのある個体になるらしい。ハズレのズッキーニだ。食中毒にもつながるといので、要注意！

それからは切ったときにズッキーニのヘタを刮めて苦みを確かめてから料理している。今回は、そんなズッキーニを手軽にあっさり食べられる浅漬けにしてみた。シャキシャキとした歯ごたえと、ほんのりとした甘さにご飯が進む。もう一品ほしい時には便利な品だ。

つくりかた

- ①鍋に水、調味料を入れてひと煮たちさせる。
- ②よく冷ましてから、ジップロックなどの袋に入れる。
- ③ズッキーニは、お好みの大きさに切る。皮をピーラーで数か所削いでおくと見た目が綺麗です。
- ④①の入った袋に切ったズッキーニを入れ、空気を抜きながら軽く揉んで冷蔵庫に入れる。
- ⑤汁気を切って皿に盛りつける。

☆材料☆

ズッキーニ	2本
水	200cc
顆粒だし	小さじ 1
昆布茶	少々
酢	大さじ 3
醤油	小さじ 2
砂糖	大さじ 1
塩	大さじ 1

※大まかな目安なので
お好みの味に仕上げてください
「浅漬けの素」で簡単調理も！

うちのかぞく紹介



テンちゃん(7さい)

子犬のときに小郷のおうちに来たテンちゃん。
丸っこい姿とコロコロした動作に家族はみんなメロメロ。
立派に成長した今も変わらず、愛されて育てているテンちゃんはお散歩と家族のことが大好き。元気いっぱい、とってもかわいい美濃芝の女の子です！



NEWS

お知らせ

今年の加子母歌舞伎公演は10月26日(日)です！

第51回加子母歌舞伎公演に向けて、準備が進んでいます。今年も小中学生、先生、加子母内外の若者たちが地歌舞伎をやってみたいと手を挙げてくれました。地歌舞伎は見る側も声をかけたり、おひねりを飛ばしたり、と参加型で楽しめるイベントです。いったことないけど、どうしようかな？と思う方も是非、気軽な気持ちで来てくださいね。

地芝居スタンプラリーが

今年は地芝居印帳になって登場！



可愛い「地芝居札」がもらえるよ！



Podcast



J1-KABUKI A Timeless Journey

地歌舞伎とともに伝統を旅するをテーマに

地歌舞伎を通して地域の文化や歴史を深く掘り下げ、地元の役者や、舞台スタッフ、さらには観客など、さまざまな視点から地歌舞伎を探り、地歌舞伎のある、豊かなライフスタイルを様々なゲストと考えていきます。

(秦雅文)

地歌舞伎ポッドキャストは
こちらのQRコードから
アクセスできます！



New Event Coming Soon...

july 20.

どさ
ない

Editorial Department

今井梓沙	原田佳樹
中津政守	中島彩愛(表紙デザイン)
丹羽淳一	山本明斗
佐野智哉	廣野真貴
佐藤雄	明治座案内人
日下部さくら	
可知美星	現在記者募集中心！